広島女学院大学生活科学部紀要　第19号
Journal of the Faculty for Human Life Science
Hiroshima Jogakuin University ***19***：*145-151 Mar. 2012*〔建築作品〕

PYRAMIDE Ⅰ［M邸］

－虚白庵へのオマージュ－

本　村　佳　久

（2011年11月11日受理）

設計・作図：　本村佳久

Housing in Tokyo

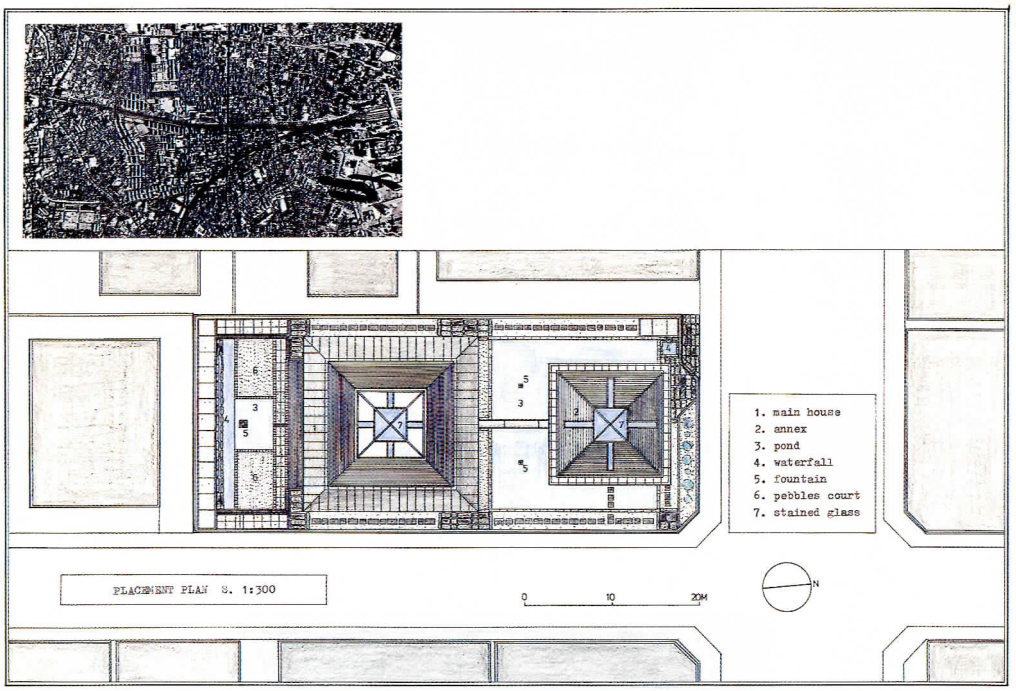
Yoshihisa MOTOMURA

虚白庵（白井自邸）にて。1980

この住宅設計は，建築家故白井晟一氏の自邸「虚白庵」へのオマージュである。40年ほど前に東京中野江原に竣工した白井設計の虚白庵は2011年に取り壊された。戦後の名住宅のひとつと評されたものである。

白井晩年の最後の弟子として，私は虚白庵の離れの一室で３年ほど図面を描いた。部屋にはレオナルド・ダ・ヴィンチ，バーリントンハウスのカルトンの複製画が掛けてあった。

その部屋で建築・芸術・歴史を師と語った思い出として，この建築を白井晟一に捧げる。

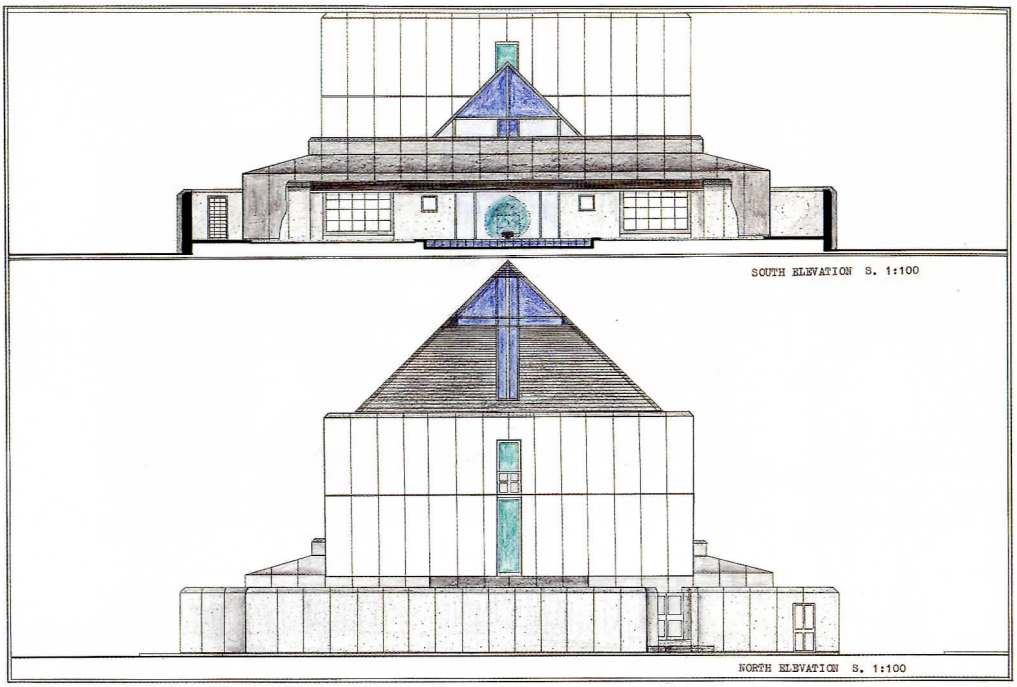


白井晟一先生

師のひとりに白井晟一先生がいる。書家・建築家である。戦前，ハイデルベルグのヤスパース，ベルリンのデソワール等の下に哲学を学び，パリでアンドレ・マルローなどと地下活動していたという先生は独学で建築家になられた。

学生の私は先生の建築に接した時，バッハ，シュッツなどと同質の音楽的空間をその中に聴いた。

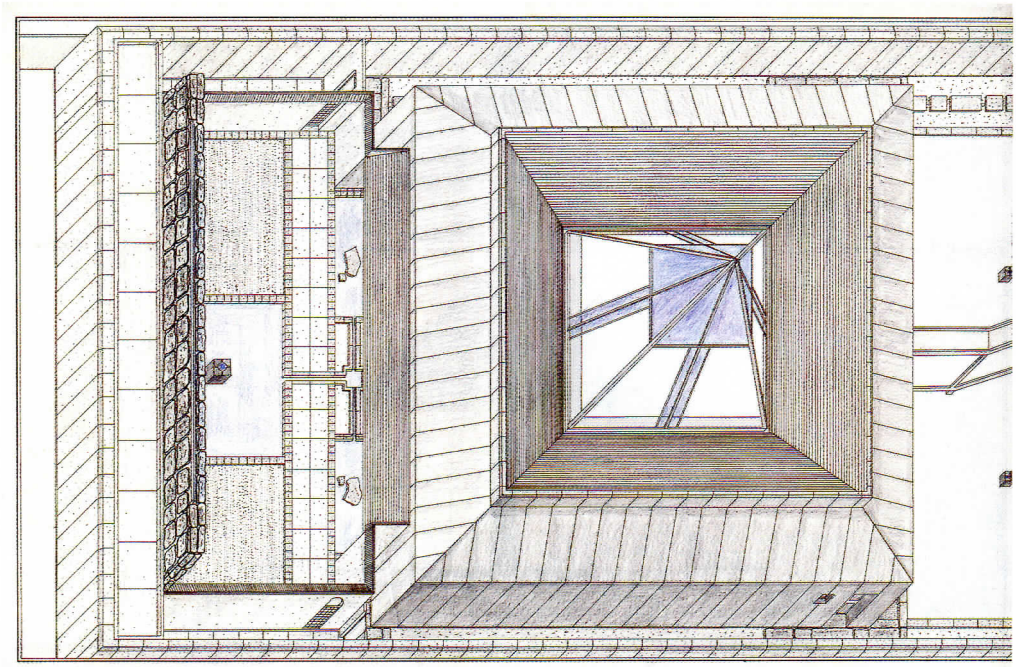
ご自宅をお訪ねした夜，73歳の先生は歴史を勉強しなさいと言われた。渋谷・静岡の美術館設計をお手伝いした後，私はドイツに留学した。南仏シトー会のル・トロネ修道院を訪れた時，その言葉を思い出した。ル・コルビュジェが沈黙した建築のひとつ。私は聖堂でバッハの曲を

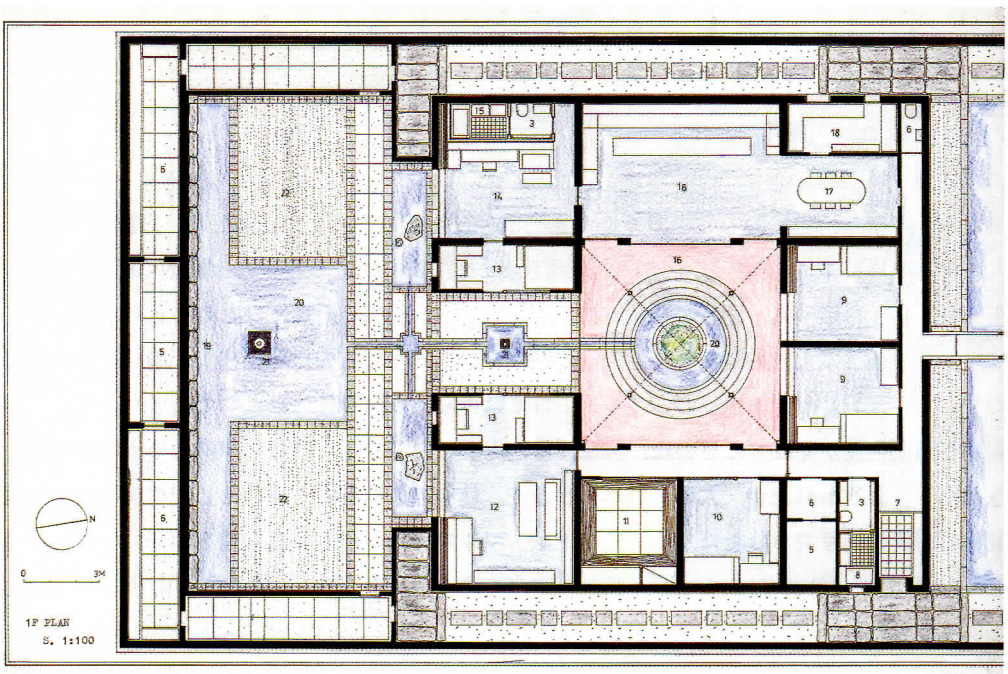


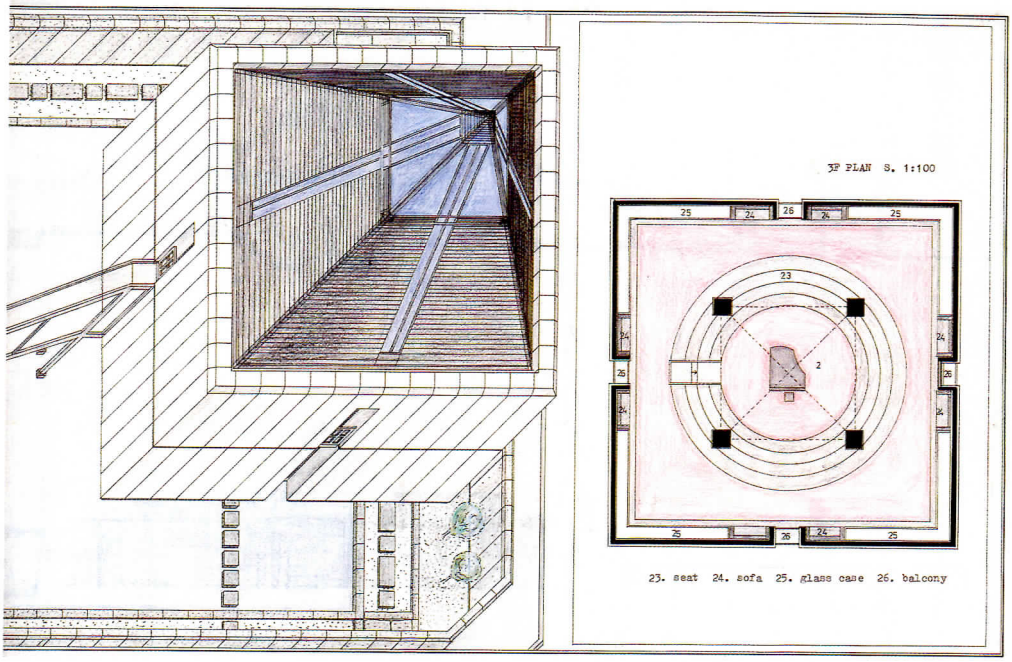
笛で吹きながら，先生の心の中深くこの建築が存在していたことを直観した。「歴史」とは，人の営みの最も美しい純粋さ・自然さ・謙虚さのことであっただろう。この建築の周りの木々・空・石・水・自然・人・建築がひとつになったもの…。美しい自然・ひとの心との共鳴。

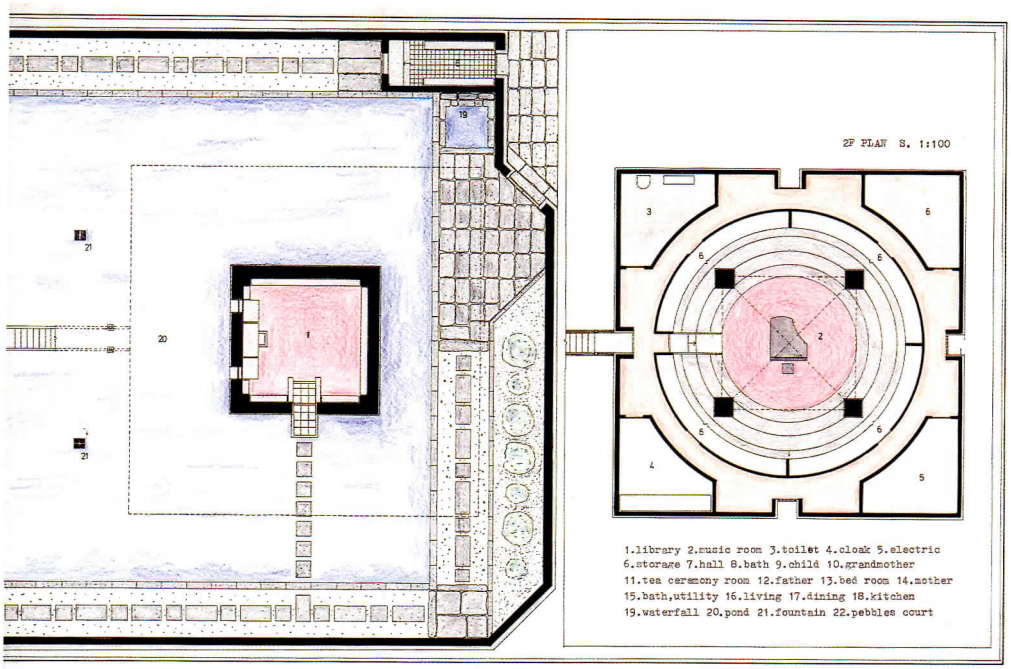
マルローは日本人の純粋な精神性の本質・象徴を記号としての伊勢神宮，その周辺の杉木立の中に見いだしたが，先生にとってル・トロネは西欧人の精神性のひとつであっただろう。静岡の芹澤美術館が完成した日の夜，自邸「虚白庵」で白井先生は私に「伊勢のようなものができたか？」と言われたが，人間・日本人として，精神の最も美しい結晶としての建築を，生涯最後の瞬間まで探究されただろう。アンドレ・マルローは，日本人は永遠を瞬間に表現すると言ったが，先生は純粋・無垢（むく）なもの，「精神の改良を導く清冽（せいれつ）な空間」を建築と書に「瞬間に凍結」しようとされた。

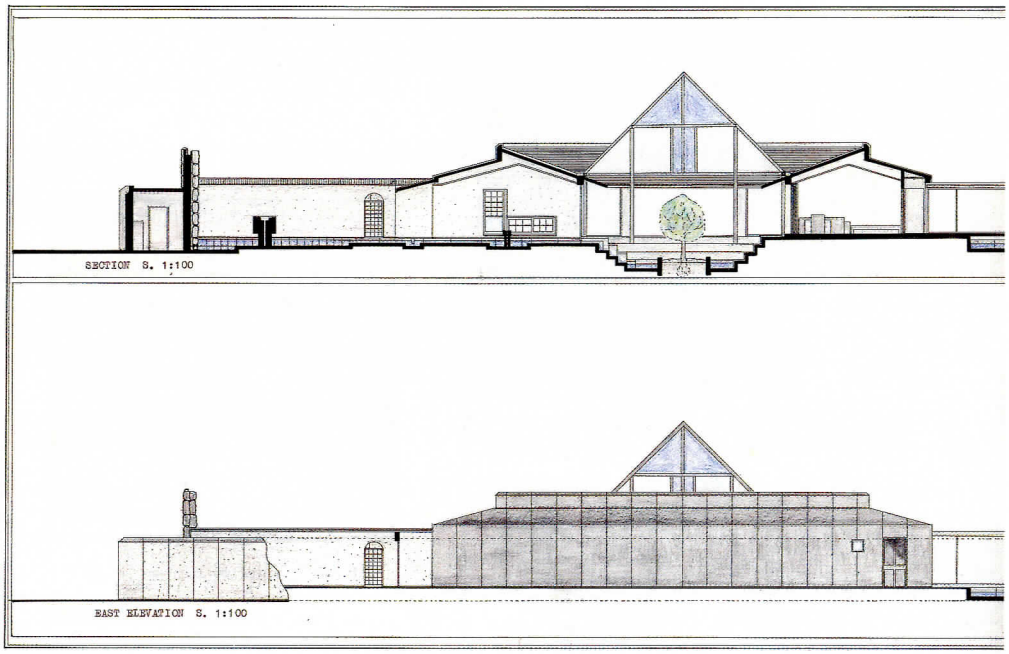
（中国新聞「でるた」を修正・加筆）

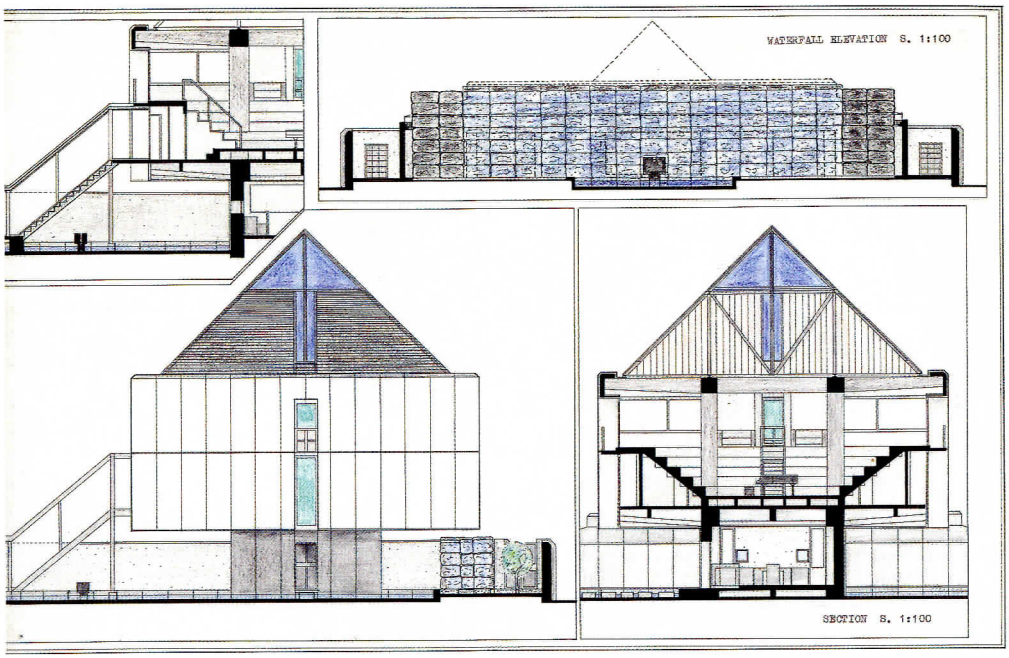



1F PLAN
S. 1:100
N
0
3M


3F PLAN S. 1:100
23. seat 24. sofa 25. glass case 26. balcony


2F PLAN S. 1:100
1.library 2.music room 3.toilet 4.cloak 5.electric
6.storage 7.hall 8.bath 9.child 10.grandmother
11.tea ceremony room 12.father 13.bed room 14.mother
15.bath,utility 16.living 17.dining 18.kitchen
19.waterfall 20.pond 21.fountain 22.pebbles court


SECTION S. 1:100
EAST ELEVATION S. 1:100


WATERFALL ELEVATION S. 1:100
SECTION S. 1:100